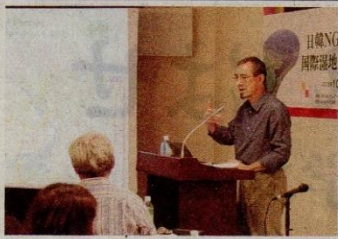


(第3種郵便物認可)



国内外の市民グループが湿地保全について考える「日韓NGO湿地フォーラム・国際湿地NGOワークショップ」が二十九日、二日

湿地、河口堰問題を議論

岐阜 NGO国際フォーラム

間の日程で岐阜市美江寺町の市民会館で始まり、長良川河口堰の開門を巡る問題などが報告された。

湿地保全の国際条約「ラムサール条約」の事務局メンバーのルー

・ヤン氏が基調講演し、環境問題の解決に果たすNGO（非政府

ラムサール条約やNGOの役割について話すヤン氏。岐阜市民会館で

組織）の役割について「条約に加わっていない国に加盟を促したい」と、政府の目標設定に意見を反映できる」と重要性を強調した。長良川河口堰の開門調査の実現を目指す「長良川市民学習会」（岐阜市）の武藤仁事務局長は、河口堰が川と海を分断しアユやウナギといった回遊魚の成長を妨げていると指摘。同じ河口堰の開門

問題を抱える韓国・釜山や、南米コロンビアのグループによる活動報告もあった。フォーラムはNPO法人ラムサール・ネットワーク日本（東京）が二〇〇七年から開催。岐阜では初めて開かれ、約四十人が参加した。三十日はグループ討議や全体討論などがある。参加費二千円。（近藤統義）

(第3種郵便物認可)

毎



長良川河口堰について説明する武藤仁さん。岐阜市民会館で

河口堰開門目指す 市民団体活動報告

日韓NGO湿地フォーラム開幕

日韓両国の非政府組織（NGO）が湿地保全の方向性を探る「日韓NGO湿地フォーラム・国際湿地NGOワークショップ」が29日、岐阜市美江寺町の市民会館で開幕した。30日までの2日間、活動報告や討論を行う。

さまざまな生物が生息する湿地の保全で日韓NGOが協力しており、フォーラム開催は

11回目。長良川河口堰の開門調査を目指す市民団体「よみがえれ長良川実行委員会」も協力した。

主催したNPO法人ラムサール・ネットワ

ーク日本の柏木実共同代表は「岐阜は現場であり、現場での活動こそがNGOの役割だ。小さな地域の組織でも相互に交流・協力することで政府を動かす力となる」と強調した。地元からは「長良川市民学習会」の武藤仁

事務局長が「長良川河口堰開門への課題と日韓交流」と題して活動報告。周辺湿地で生物多様性を調査する中で韓国の市民団体と出会い、活動協力や情報共有、相互訪問を続けていると語った。

【高橋龍介】



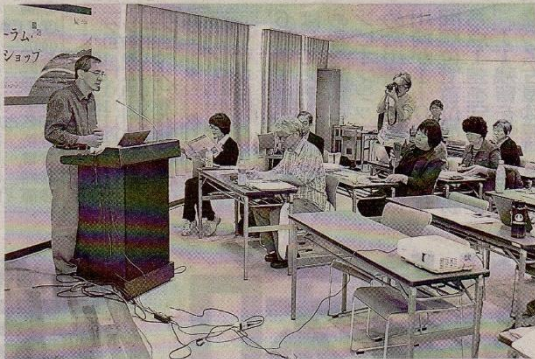
第11回 日韓NGO湿地フォーラム・国際湿地NGOワークショップ 2016年10月29日(土) / 30日(日)

16年(平成28年)10月30日 日曜日 岐阜新聞

「湿地保全、NGOに期待」

岐阜市で日韓フォーラムとワークショップ

ラムサール事務局の博士講演



NGOの役割などを伝えるルー・ヤン博士(左)の講演に耳を傾ける出席者＝岐阜市美江寺町、市民会館

第11回日韓NGO湿地フォーラム・国際湿地NGOワークショップが29日、岐阜市美江寺町の市民会館であった。日韓のNGOなどの関係者が、湿地の保全に向けて各地域で活動するNGOの在り方や国際協力への関わり方を考えた。30日も開かれる。

(松田尚康)

NPO法人ラムサール・ネットワーク日本主催、韓国湿地NGOネットワーク共催。フォーラムは県内で初めて開かれた。

基調講演では、ラムサール条約事務局のルー・ヤン博士が「ラムサール条約とNGO」をテーマに講演。「これまで条約に登録されることに関心が高かったが、今は質の良い湿地の保全が求められている」と指摘し「N

GOの役割は多岐にわたる。国と協力し(湿地の保全に向けた)戦略計画や報告書に意見を反映させられる」と述べ、今後の活動に期待を寄せた。

その後、市民団体「長良川市民学習会」が「長良川河口堰開門への課題と日韓交流」の課題と日韓交流の重要な湿地の現状や、韓国国内の4大河川事業で引き起こされた生態系破壊の実態と住民訴訟の経過を説明し

「長良川河口堰開門への課題と日韓交流」の課題と日韓交流の重要な湿地の現状や、韓国国内の4大河川事業で引き起こされた生態系破壊の実態と住民訴訟の経過を説明し



中流：鶴飼い場で清流に触れていただきました。



下流：大橋亮一さんの話を聴きました。



河口：シジミプロジェクトの伊藤研司さんの話を聴きました。